

野菜の需給・価格動向レポート(平成２３年７月１９日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類		6月の価格動向		7月の価格動向		生育及び価格の7月の見通し		
		（参考） 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額		（参考） 保証基準額の 算定の基となる 平均価格			指定野菜の関東・ 近畿ブロック旬別 平均販売価額
			中旬	下旬				
葉 茎 菜	キャベツ	67.2	42	75	74.19	101	・入荷見込量：15,103t（102） ・主産地：群馬（61）、岩手（14）、茨城（8） ・群馬産は春先の低温、6月の急激な気温上昇で生育が遅れ少なめの出荷となっていたが、徐々に出荷量が増加し、平年並みの出荷となる見込み。岩手産は定植時期が遅れたこと等から少なめの出荷だったが、気温の上昇とともに生育が進み下旬は増加する見込み。 ・出荷量の回復が見込まれることから、価格は平年並みに近づく見込み。	
		81.66	59	88	93.59	122	・入荷見込量：3,600t（109） ・主産地：長野（38）、群馬（36）、茨城（14）	
	ねぎ （関東：白ねぎ。 関西：青ねぎ）	264.1	255	253	273.33	272	・入荷見込数量：3,979t（102） ・主産地：茨城（61）、千葉（15）、輸入（8）、埼玉（7） ・茨城産はトンネルものから露地ものへの替わり時期で暑さの影響もあり、やや少なめの出荷量となっている。千葉産は出荷の終盤を迎え徐々に減少傾向。 ・茨城産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は平年よりやや上回って推移する見込み。	
		334.73	333	336	512.77	432	・入荷見込数量：230t（96） ・主産地：香川（36）、大阪（15）、徳島（15）、高知（9）、奈良（9）、三重（7）	
	はくさい	67.05	58	63	82.17	63	・入荷見込量：6,024t（100） ・主産地：長野（86） ・長野産は作柄は順調で本格的な出荷となっている。 ・順調な出荷が見込まれる一方、需要が減退しているため価格は平年を下回って推移する見込み。	
		82.06	68	67	98.58	64	・入荷見込量：2,400t（98） ・主産地：長野（98）	
	ほうれんそう	376.1	442	435	583.95	543	・入荷見込量：931t（98） ・主産地：群馬（24）、茨城（21）、栃木（21）、岩手（18） ・群馬産は、露地ものから雨よけへの切り替わりの時期、高温障害もみられ少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。茨城産は震災、原発の影響で作付面積が減少しており、今後も少なめの出荷が続く見込み。 ・出荷量が少なめと見込まれることから、価格は平年を上回って推移する見込み。	
		396.89	580	562	670.86	666	・入荷見込量：410t（901） ・主産地：岐阜（83）、北海道（8）、	
	レタス	126.45	117	107	126.45	104	・入荷見込量：8,516t（100） ・主産地：長野（83）、群馬（12） ・長野産は高冷地での出荷に切り替わり、順調な生育で肥大も進み大玉傾向の出荷となっており、今後も平年並みの出荷となる見込み。群馬産も本格的な出荷となり、順調な生育、出荷となる見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は平年を下回って推移する見込み。	
		132.22	125	116	132.22	104	・入荷見込量：2,100t（102） ・主産地：長野（99）	
	たまねぎ	71.02	64	68	84.85	66	・入荷見込量：10,135t（110） ・主産地：佐賀（44）、兵庫（26）、香川（10）、輸入（4） ・佐賀産は貯蔵ものの出荷となり、平年並みの出荷となっている。兵庫産も貯蔵ものの出荷となり、前年を上回る出荷の見込み。 ・府県産の潤沢な出荷が見込まれることから、価格は平年を下回って推移する見込み。	
		71.02	68	68	84.85	71	・入荷見込量：3,500t（104） ・主産地：兵庫（92）	
果 菜	きゅうり	189.84	224	287	210.69	304	・入荷見込量：7,928t（97） ・主産地：福島（41）、岩手（18）、秋田（11）、宮城（5）、埼玉（4） ・福島産は春先の低温等で作付開始が遅れていたが、気温の上昇により出荷量が徐々に増え始め、下旬から8月初めがピークとなる見込み。岩手産は春先の低温、少雨の影響で生育が少し遅れているが、下旬から出荷量が増加し出荷が本格化するが、前年には届かない見込み。 ・東北産の本格的な出荷が本格化することから、価格は平年より高めながら落ち着いてくる見込み。	
		177.22	265	290	221.71	280	・入荷見込量：2,100t（95） ・主産地：福島(45)、北海道（15）、愛媛(13)、香川（6）	
	トマト	209.6	280	315	218.58	351	・入荷見込量：8,328t（100） ・主産地：青森（19）、茨城（12）、栃木（11）、福島（10）、千葉（9）、岩手（8）、群馬（8）、秋田（5） ・青森産は春先の低温の影響で生育の遅れが生じていたが、気温の上昇とともに生育が回復し、今後は順調な出荷となる見込み。茨城産は、出荷の終盤を迎え徐々に減少する見込み。 ・東北産の夏秋ものの出荷が本格化することから、価格は平年より高めながら落ち着いてくる見込み。 (※トピック欄参照)	
		228.5	299	340	271.33	370	・入荷見込量：1,800t（106） ・主産地：北海道（33）、岐阜（16）、愛知（9）、石川(7)、熊本（7）	
	なす	297.1	412	469	209.55	372	・入荷見込量：4,790t（98） ・主産地：群馬（27）、茨城（26）、栃木（26）、埼玉（8） ・群馬産は、ハウスものが終了し露地もの出荷が中心となっている。急激な気温の上昇と少雨の影響でやや少なめの出荷となっているが、今後は生育が回復し前年並みの出荷となる見込み。茨城産は少なめの出荷だったが、梅雨明けの気温上昇で出荷量は回復傾向、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・出荷量の回復が見込まれることから、価格は平年並みに近づいてくる見込み。	
		285.3	391	374	221.72	336	・入荷見込量：1,100t（96） ・主産地：徳島（22）、大阪（20）、山梨（14）、奈良（11）、京都（10）	
	ピーマン	251.5	334	368	251.5	444	・入荷見込量：2,064t（100） ・主産地：茨城（60）、岩手（25） ・茨城産は、出荷の終盤を迎え減少傾向だが、出荷量は平年並みに推移する見込み。岩手産は低温少雨の影響で生育が遅れていたが、生育は回復し下旬から出荷量は徐々に増え、前年並みの出荷の見込み。 ・岩手産の出荷量の増加が見込まれることから、価格は平年並みに近づいてくる見込み。	
		253.95	358	427	253.95	461	・入荷見込量：370t（114） ・主産地：宮崎（17）、大分（15）、兵庫（15）、福島（12）、北海道（9）、和歌山（7）、愛媛（6）	
根 菜	だいこん	91.15	72	87	99.58	87	・入荷見込量：8,386t（95） ・主産地：北海道（50）、青森（42） ・北海道産は播種時期が遅れたことにより、生育が1週間～2週間遅れていたが、本格的な出荷開始となり今後は平年並みの出荷となる見込み。青森産は、順調な生育で平年並みの出荷となる見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。	
		104.71	83	100	111.54	89	・入荷見込量：2,900t（99） ・主産地：北海道（61）、岐阜（16）、青森（10）	
	にんじん	133.01	105	102	133.01	112	・入荷見込量：5,538t（100） ・主産地：青森（45）、千葉（27）、北海道（18）、輸入（5） ・青森産は、生育の遅れが生じていたが、天候の回復とともに順調な出荷となっている。千葉産は出荷のピークは過ぎたものの、7月いっぱい出荷が続く見込み。 ・青森産の潤沢な出荷が見込まれることから、価格は平年を下回って推移する見込み。	
		139.6	108	116	139.6	117	・入荷見込量：2,500t（109） ・主産地：青森（29）、長崎（27）、北海道（25）、和歌山（11）	

種類		6月の価格動向			7月の価格動向		生育及び価格の7月の見通し	
		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・ 近畿ブロック旬別 平均販売価額		
			中旬	下旬				上旬
い も	さといも	344	606	414	344	349	・鹿児島産は、冬場の低温の影響で少なめの出荷となっていたが、作柄が回復し平年並みの出荷となっている。宮崎産は生育が遅れていたが、天候の回復により生育が回復し、少なかった前年よりは多くなる見込み。 ・価格は平年並みに推移する見込み。	
		347.9	593	437	347.9	388		
	ばれいしょ	131.8	167	142	96.77	116		・茨城産、千葉産、静岡産ともに平年並みの出荷の見込み。 ・価格は、平年並みに推移する見込み。
		131.8	167	156	96.77	122		

1) 平均価格は、過去9年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。
2) 旬別平均販売価額の背景なしは保証基準額を上回るもの。背景ありは下回るもの(消費税は除く)。
3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック

1) 入荷見込量は関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもは前年実績。
2) 主産地は東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
3) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。

2 野菜の需要動向

家計調査でみると、5月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、5,171gで対前年比105%、購入金額は、1,820円で同93%となり、購入量は前年を上回ったが、購入金額は前年を下回った。

また、小売物価統計によると、6月のキャベツの小売価格は103円で過去5年平均比65%、レタスは295円で同82%となり、キャベツ、レタスともに過去5年比を下回り、特にキャベツが大きく下回っている。

1 生鮮野菜の購入量及び金額

(1人当たりの購入量、金額)

年 月	過去5か年平均		平成22年		平成23年			
	購入量 (g)	金額 (円)	購入量 (g)	金額 (円)	購入量 (g)	前年比	金額 (円)	前年比
1月	4,189	1,529	4,240	1,551	4,310	102	1,573	101
2月	4,391	1,544	4,461	1,574	4,267	96	1,629	103
3月	4,767	1,695	4,970	1,768	4,867	98	1,788	101
4月	4,732	1,808	4,518	1,884	4,796	106	1,789	95
5月	5,094	1,902	4,925	1,965	5,171	105	1,820	93
6月	5,033	1,880	5,026	1,907		0		0
7月	4,438	1,683	4,264	1,697		0		0
8月	4,272	1,732	4,241	1,733		0		0
9月	4,868	1,806	4,606	1,818		0		0
10月	5,314	1,849	4,994	1,959		0		0
11月	4,997	1,614	4,678	1,774		0		0
12月	5,212	1,817	5,177	1,887		0		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

2 主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移

(単位：円/kg)

	キャベツ			レタス		
	過去5カ年平均	平成23年	5カ年比(%)	過去5カ年平均	平成23年	5カ年比(%)
H22.7月	149	164	110	315	317	101
8月	159	166	104	449	536	119
9月	153	155	101	472	515	109
10月	146	192	132	419	668	159
11月	129	265	205	339	520	153
12月	146	185	127	456	393	86
H23.1月	189	186	98	618	502	81
2月	173	228	132	496	635	128
3月	181	206	114	455	435	96
4月	250	195	78	464	348	75
5月	185	127	69	399	277	69
6月	159	103	65	360	295	82

注1：過去5カ年はH22.7～はH17～H21、H23.1～はH18～H22の平均

注2：6月の値は、6月中旬の速報値

資料：総務省統計局「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

平成23年6月の輸入量を植物防疫統計で見ると、たまねぎは前年比92%（うち中国は96%、オーストラリア120%）の2万7千トン、にんじんは同117%（うち中国は124%、ニュージーランド63%）の6千トン、ねぎは同116%（うち中国は116%）の5千トンとなり、にんじん、ねぎは前年を上回ったが、たまねぎは前年を下回った。

野菜等の輸入数量の推移について

(単位：トン、%)

区分	平成21年		平成22年		平成23年1～5月		平成23年5月
		前年比		前年比		前年同期比	前年同期比
生鮮野菜	615,271	102	820,687	133	448,411	126	110
加工野菜	1,569,627	95	1,677,840	107	742,627	111	113
野菜輸入量合計	2,184,898	97	2,498,527	114	1,191,038	116	112
うち中国産野菜合計	1,098,415	95	1,284,449	117	581,363	121	112
中国産シェア	50		51		49		

資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向

(単位：トン、%)

品目	輸入先	(A) 2010.6	(B) 2011.6	(B) / (A)
たまねぎ	合計	29,683	27,351	92
	中国	27,499	26,487	96
	オーストラリア	427	514	120
にんじん	合計	4,816	5,641	117
	中国	3,976	4,938	124
	ニュージーランド	635	400	63
ねぎ	合計	4,083	4,731	116
	中国	4,081	4,728	116

資料：農林水産省「植物防疫統計」（2011.6）は、6月末日までの速報値である。

4 トピック

トマトの価格高騰について トマトの価格が6月下旬より高騰している。これは、6月の主産地の栃木産が震災の影響で定植が遅れたことから、生育が1週間～10日間遅れ、下旬は少なめの出荷量で推移したことに加え、また、出荷の終盤を迎えた千葉、茨城産も5月の曇雨天の影響により6月は少なめの出荷量となったことによる。 一方、7月から本格化する東北産が4月～5月の低温、震災等による作業の遅れから生育が1週間程度遅れ少なめの出荷量になっている。 夏秋トマトの作付面積としては、前年並みであり、今後は生育も回復し順調な出荷が見込まれることから、価格は徐々に落ち着いてくるものと見込まれる。 節電の夏が本格化する中で非加熱食材としてのトマトをあらためて注目したい。	トマトの旬別卸売価格と入荷量の推移 (2011年6月～7月上旬) 東京都中央卸売市場	トマト主産地の生育ステージ
	<div><div>主産地</div><div>茨城・千葉</div><div>栃木</div><div>青森</div><div>福島</div></div> <div><div>トマト</div></div> <div>資料:青果物情報センター</div>	